

20006

単純CTによるEVT時における画像診断支援

¹順天堂大学医学部附属練馬病院、²順天堂大学医学部附属練馬病院

早川 朋美¹、木暮 陽介¹、西野 顕久²

【目的】近年、末梢血管内治療（EVT）は増加傾向にあり、エコーガイド下にて治療を行うケースも多くなってきている。しかし、エコーガイド下でも、描出困難な病変もあり、ワイヤークロスが難航する場合もある。浅大腿動脈（SFA）を治療目的としたCTO病変に対し、単純CTを治療前に施行する事で、画像診断支援を試みたので報告する。【方法】対象は既にAoGを施行し、後日PTAを予定している患者のみとする。PTA前日に単純CTを施行し、撮影範囲は総腸骨動脈から膝下動脈までとし、対象血管に対してズームング再構成を行い、CPR画像（モノクロイメージ、カラーマッピングイメージ（図））および石灰化の強い場所は、X-section imageを作成する。【結果】EVT前に単純CTを撮影し、血管に合わせたCPR画像やX-section imageを作成することによって、AoGやエコーでは解らない石灰化の情報を知ることが出来た。【結論】単純CTでのカラーマッピングCPR画像はシミュレーションとして有用であった。



